

社会科（公民的分野）学習指導案

日 時：令和 6 年 7 月 18 日（木）

学 級：千歳市立青葉中学校 3 年 2 組

男子 19 名 女子 15 名 計 34 名

授業者：田中 優人

1 単元名

公民 第 2 章 個人を尊重する日本国憲法

2 節 憲法が保障する基本的人権

2 単元観

日本国憲法に規定されている「基本的人権」について学習し、「個人の尊重」の基礎を学ぶ単元である。1 節では、憲法の成り立ちや考え方、「国民権」の意義について、2 節では「基本的人権」の詳細について、3 節では「平和主義」の現状とこれからについて学習していく。2 節の単元の課題を「人権を守るためには、何が必要なのだろう」とし、様々な権利の学習を通して、人権を守るために必要な考え方や民主的な社会生活を営むために必要な知識を身に付けさせたい。

3 研究との関わり「対話を用いた主体的な学びと課題を作り出す授業の工夫」について

本単元では、日本国憲法に規定されている権利を学習しながら、各権利の背景や過去の事象を踏まえて、人権を守るために何が必要なのか、将来の社会生活でどのような考えが必要なのか、思考させたい。本時では、自由権が侵害された事例がどの自由権の侵害に当たるか確認する。その上で、自分にとって一番重大だと思う自由権の侵害は何か、自分事として課題意識を持って考え、他者との対話を通じて、考えの違いを理解する。なぜ人によって大切にしたい自由権は違うのか、他者の考えを踏まえながら、自分の考えをまとめる。他者との対話を踏まえて、自由権の中でも特に大切にすべきものは何なのか、自分の中で課題を作り出し、考えをまとめさせたい。

4 単元の目標及び評価規準

指導目標	知識・技能
○基本的人権を守るという視点から、個人の尊重や法の意義についての理解を深める。 ○民主的な社会生活を営むためには、法にもとづく政治が大切であることを理解し、我が国の政治が日本国憲法にもとづいて行われていることの意味を考える。	個人の尊重についての考え方を基本的人権を中心に深め、民主的な社会生活を営むためには法に基づく政治が大切であることや、法の意義を理解している。
	思考・判断・表現
	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、基本的人権を中心とした個人の尊重の考え方や、民主的な社会生活を営むことの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度
	基本的人権を守ることや法に基づく政治の意義などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

5 単元の指導計画

題材	時間	主な学習内容等	評価規準等		
			知識技能	思考判断表現	主体的に学習する態度
単元を貫く学習課題：人権を守るためには、何が必要なのだろう					
基本的 人権を 尊重す ること	1	生命の大切さとともに、すべての人権の根源には個人の尊重という考え方があることを理解する。			生命や人権を尊重しようという考え方の根源に個人の尊重の理念があることを理解し、憲法で保障された内容について調べまとめている。
差別を しな い、さ せない	2	いまだ存在するさまざまな差別を許すことなく、解消に向けて主体的に考え、取り組んでいこうとする態度を身につける。		部落差別やアイヌ民族、定住外国人への差別に関して、その解消に向けた取り組みを自分事として受け止め、考察し、表現している。	
ともに 生きる 社会の 実現へ	3	個人として尊重されることの意味を理解し、さまざまな違いをもった人々が活躍できる社会の実現の大切さを理解する。	女性差別の背景にある考え方や障がい者の権利について、違いをもつ人々が活躍できる社会の重要性について理解している。		
ともに 生きる 社会を 目指す 人たち	4	識字運動やハンセン病問題、LGBT への取り組みに関する具体的な事例を読み解くことを通じて、人権保障の大切さについてさらに深く考える。		識字運動やハンセン病問題、LGBT の取り組みを通して、個人を尊重することの意義について考察し、表現している。	
自由っ てなん だろう	5	憲法で保障された自由について、憲法の条文や具体例を通して理解を深める。		具体的な事例を通して、精神活動の自由について様々な立場や視点から考察し、説明している。	
自由な 社会の ために	6 本時	憲法で保障された経済活動の自由について、憲法の条文や具体例を通して、その意義や目的を考える。		具体的な事例を通して、生命・身体の自由や経済活動の自由などについて、様々な立場や視点から考察し、説明している。	

人間らしい生活とは	7	社会権の最も基本となる生存権の保障と、それにもとづく制度について理解を深め、その意義を考える。	少子高齢社会化や経済格差の広がりなど、社会権が求められるようになった背景を調べまとめ、社会権の内容と意義について理解している。		
人間らしい生活の保障へ	8	労働者を守る権利が保障されるようになった歴史的背景や、法の整備を含めた政府の取り組みについて理解する。	「教育を受ける権利」や「労働者の権利」、「労働者を守るための法律」の内容や意義を調べまとめ、それぞれの歴史的背景や政府の取り組みを理解している。		
自ら人権を守るために	9	参政権の内容と意義を具体的な事例を通じて理解し、国民が政治や裁判に積極的に参加し、監視することの重要性に気づく。	資料を活用して参政権と請求権の内容を調べまとめ、人権を保障していく上で、政治や裁判に関心をもっていくことの重要性を理解している。	具体的な事例をもとに、人権救済の在り方について考察している。	
自由と権利を守るために	10	自由と権利を守るために、国民一人一人が個々の責任や義務を果たすことの重要性について考える。		人権と公共の福祉がぶつかり合う具体例をもとに、公共の福祉が担う役割について、様々な視点や立場から考察し、表現している。	
発展する人権	11	新しい人権について、立場による考え方の違いや高まる個人の責任などに着目し、人権の問題を公正に判断する態度を養う。	新しい人権が生まれてきた根拠やその内容について、具体的な事例を通して理解している。	新しい人権と従来の考え方を対比することを通して、社会の変化と人権の在り方について、多面的・多角的に考察している。	
人権侵害のない世界に	12	日本と世界の人権をめぐる課題の比較などを通して、今後果たすべき日本の役割や自分たちにできることを考える。			学習内容を振り返って、具体的な事例を基に、日本国憲法が大切にされてきた理由を、粘り強く考察することを通して、主体的に社会に関わろうとしている。

6 本時

○ 本時の目標

① 具体的な事例を通して、生命・身体の自由や経済活動の自由について、様々な立場や視点から考察し、説明している。

○ 本時の評価規準

① B 基準：自由権の中で、大切にしたいものは何か、他者との対話も踏まえて、自分の考えをまとめている。

段階	時間	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
導入	5分	○前時の復習 前時の内容を復習する。	ペアで前時の内容を口頭で確認する。	
課題：大切にしたい自由権はなんだろう				
			教員による自由権が侵害される例の説明。	
展開	10分	【個人作業】 ・自由権が侵害された例がそれぞれの自由権の侵害に当たるか判断する。	【個人作業】 ・前時までに学習した内容のうち、どの自由権に当てはまるか考えさせる。 ・教員による解答。	
展開	25分	【個人作業】（10分） 自由の侵害の例の中で、どれが一番重大か、自分が問題と感じるものを選ぶ。 【3～5名グループ活動】（5分） ・グループで自分の考えを発表し、交流する。 【3～5名グループ活動】（5分） ・グループの中で1番重大だと思う自由権の侵害の例を決定する。 【全体】（5分） 話した内容を全体で発表、交流する。	【個人作業】 ・自分の中で、重大な事案だと思うものをランキング形式で選ぶ。その理由も考えさせる。 【3～5名グループ活動】 ・自分の考えが、他者と違うことに気付かせる。 研究との関わり「対話」 ・多様な考えがあるからこそ、自由権は多岐にわたって保証されていることに気付かせる。	評価①
まとめ	10分	自分が大切にしたい自由権はどんな自由権か、考え、まとめる。	・自由の侵害の例以外でも、自分が大切にしたい自由権とその理由を考えさせる。	評価①

研究との関わり「課題」